

2017年1月4日

## 本学大学院生が日本学術振興会特別研究員に採用内定

本学大学院医学系研究科（機能再生医学専攻）博士前期課程2年の稲岡大悟さんが、日本学術振興会平成29年度特別研究員（DC1）に採用が内定されました。

この「特別研究員制度」は、わが国トップクラスの優れた若手研究者に、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保を図る制度です。採用には、「研究者としての能力、将来性」「研究計画」「研究業績」の3つの観点で審査され、若手研究者のキャリア形成の第一関門とも言える制度で、昨年度のDC1採用率は21.8%の狭き門となっています。

稲岡さんの研究テーマは、「X染色体不活性化機構の解明に向けた人工染色体の活用」（審査領域：医歯薬学、受入研究者：久郷裕之教授）で、本学で独自に開発された人工染色体を用いて遺伝子量補正のメカニズムの解明を目指すものです。